

市民フォト

# 鹿児島

NO.47

平成4年(1992)1月1日

特集／まちの表情—目の高さを変えて見る



わがまち高度

350m



大隅半島側から黒神町と高免町方面を眺めてみた。この地区には、有史以後起った桜島の4大噴火(文明、安永、大正、昭和)の溶岩が流れ込んでいる。生々しい昭和溶岩の上部には土石流による扇状地「地獄河原」が広がっている。1月12日には大正3年の桜島大爆発を教訓に「桜島火山爆発総合防災訓練」が行われる。

リアス式海岸には約100台の養殖いかだが浮かび、タイやヒラメ、ハマチ、フグなどが養殖されている。昨年夏の降灰や火山ガスの影響で、ミカンやビワに大きな打撃を受けたが、昔から培ってきた知恵と努力で、これからも桜島との共存への道が切りひらかれていくものと期待される。

## もくじ

わがまち高度350m .....  
特集／まちの表情 日の高さを変えて見る ..... 3 / 11  
クローズアップ（小林千鶴さん） ..... 12 / 13  
学校探訪（坂元小学校） ..... 14 / 15  
カメラトピックス ..... 16 / 17  
ハロー鹿児島（ターニャ・バッハさん） ..... 18  
シティーアングル ..... 19

わたしの散歩道（岩崎福三さん） ..... 20 / 21  
市民のひろば（郷土に根づく民俗芸能） ..... 22 / 24  
ふるさとの史跡（古い創建の伊佐智佐神社） ..... 25  
集えば楽し（鹿児島サザンロケッツ） ..... 26 / 27  
あなたのフォトサロン（自然の美を求めて） ..... 28 / 29  
動物公園のゆかいな仲間たち ..... 26 / 27  
市立美術館「構成（赤）」 ..... 30

### ●「表紙」写真説明

古くからの伝統に培われてきた日本舞踊。曲の持つ物語を、舞によってどのように表現し、見る人に伝えようかと心を碎く。  
(人物は、ミス鹿児島の中村弘美さん)

特 集

# まちの表情

## 目の高さを変えて見る

私たちは、毎日まちを見ながら暮らしています。でも、どれくらい意識しながら、まちの様子を見ているか…。

以外と、まちを何気なく見ていることに気付くのではないでしょうか。

通り慣れた場所であっても、少し目を転じてみたり、いつもと経路を変えて通つてみたりすれば、まちのいろいろな表情が見えてきます。

今回の特集では、まちの表情に新たな発見を求めて、目(カメラ)の高さを変えて眺めてみました。「セスナ機の目」の高さから、「虫の目」の高さまで。

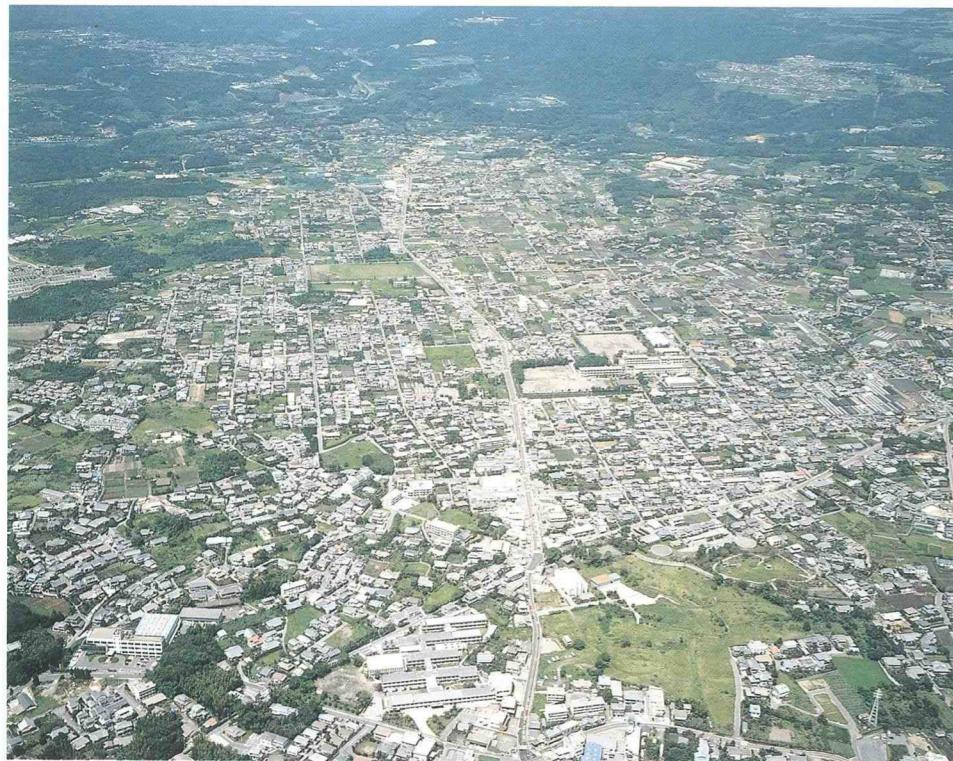
さて、どんなまちの表情が見えるでしょ…。



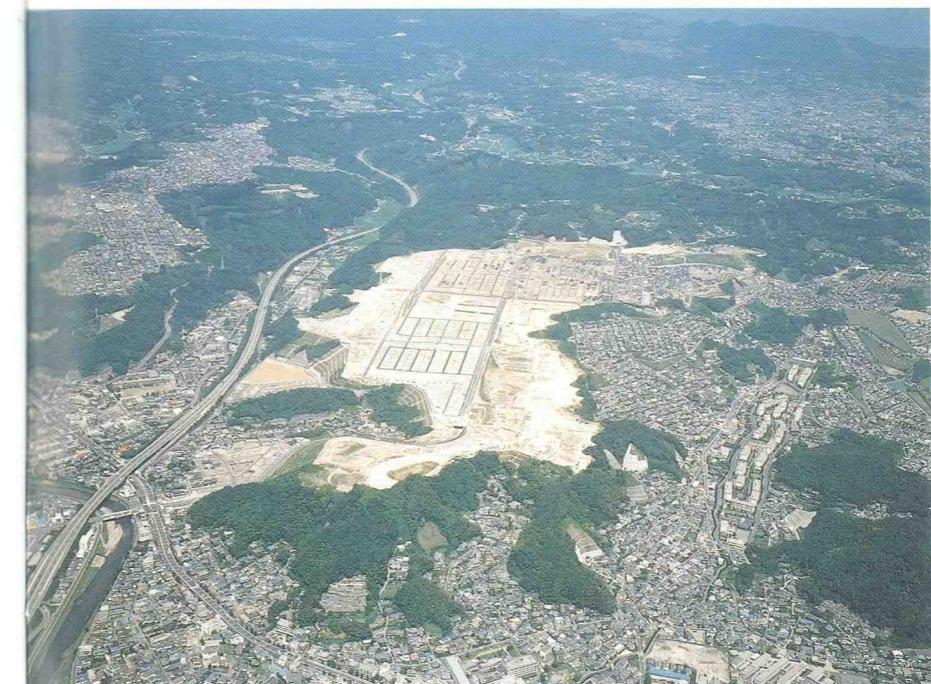
■鹿児島本港上空から中央地域を望む。まちの発展の様子には、国外県外からの来訪者も目を見張ることが多い。これから、まちと海(錦江湾)との関わりが一層注目される。

# セナ機の目

丘陵地へと広がり、  
海に向かって開かれている、  
まちの様相がわかる。



■吉野町から川上町方面。この地域は市内の野菜の主産地であり、農業の振興が図られているが、宅地化も進んできている。



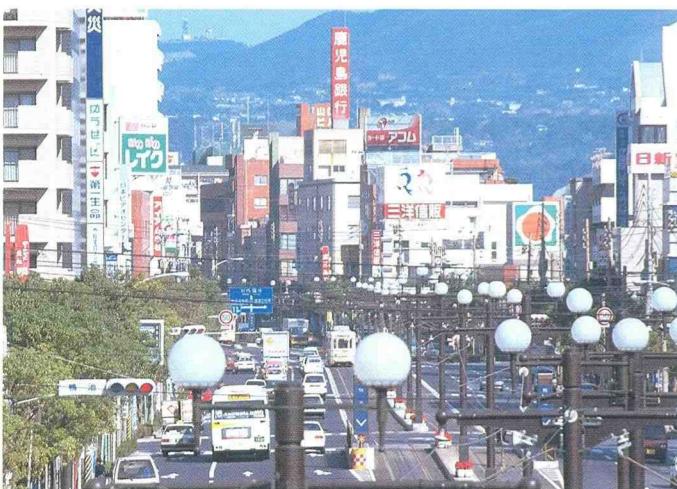
■中央は市内最後の大型団地として造成、分譲が進む伊敷ニュータウン。山間を縫うようにして延びる九州縦貫自動車道は、人・物・情報を運ぶ太いパイプとして重要な役割を果たしている。

■市電谷山電停上空から南部地域を望む。左の緑地帯、産業道路から海側に広がる臨海工業地帯の背後地として、著しく人口が増加してきた。鹿児島市の副都心としての位置づけにふさわしいまちづくりが進められている。



■手前から持木町、東桜島町、有村町。緑豊かな桜島の海岸線と青く輝く錦江湾の水面が美しい。

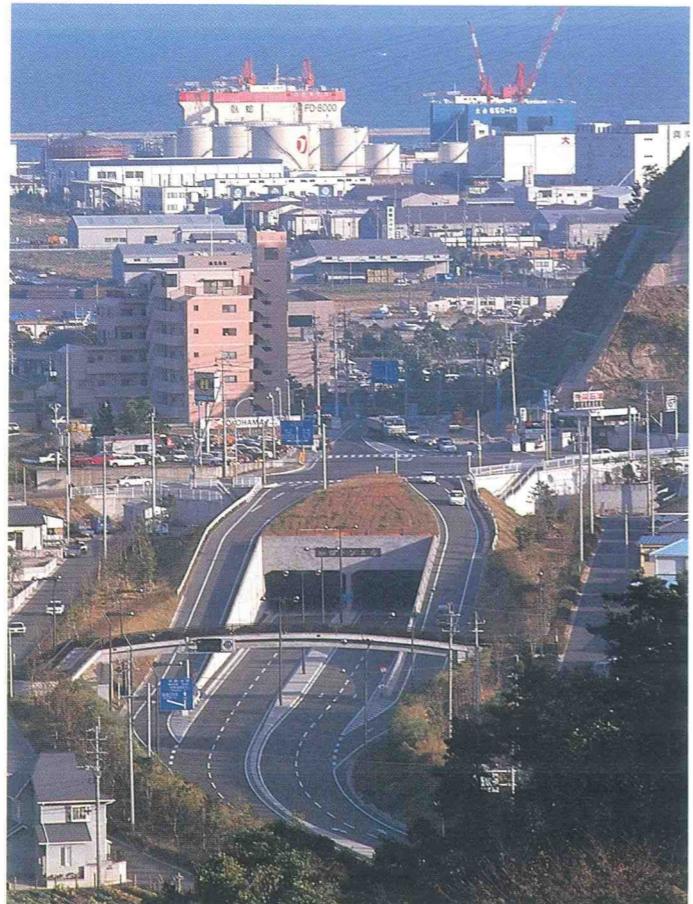




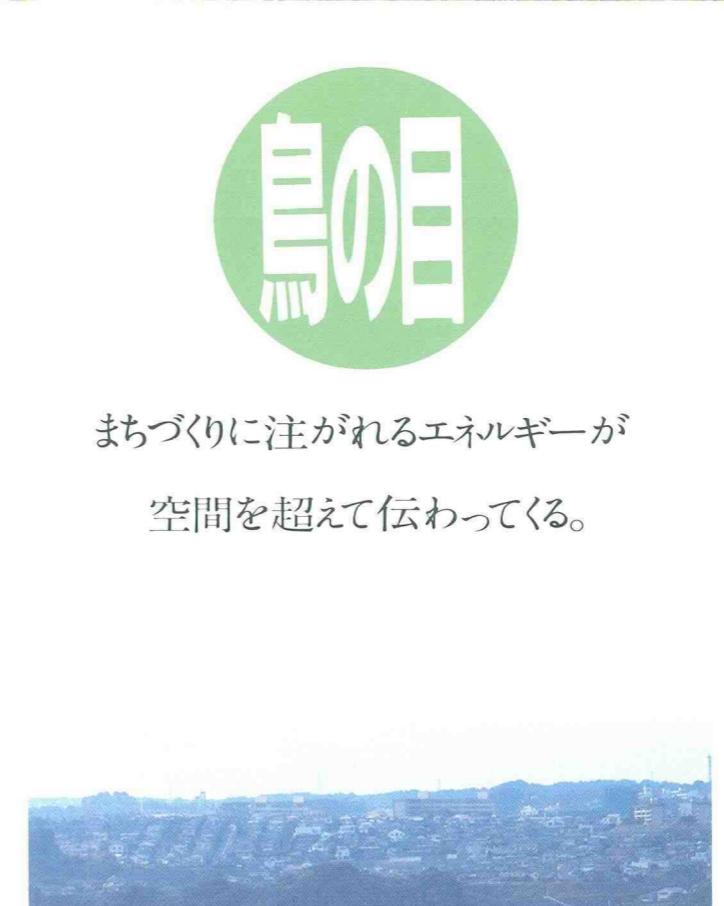
■くもの巣状の電線がすっかり取り除かれ、市電の走る風景にもマッチし、いまや鹿児島市のシンボルになりつつある市電センターポール。シャボン玉が浮かんでいるような白い電灯は、夜になると温もりのある光をつくり出し、鹿児島のまちを包んでくれる。今年度中にこの事業は完成し、電車のあるまちづくりに一段と磨きをかけてくれるに違いない。



■壁の向こうは平成4年7月末の完成へ向け工事中の中央公園地下駐車場の工事現場。壁一枚隔てた照国通りでは、カラフルな壁画が道行く人の目を楽しませてくれる。殺風景な工事現場も絵一つで街の青空美術館に変身する。



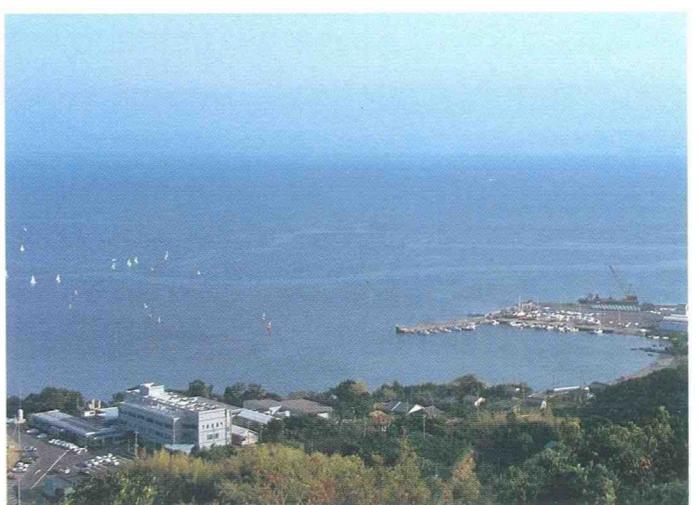
■産業道路と指宿スカイラインを結び、市街地中心部を通過させないで車を流そうという県道・玉取迫鹿児島港線（一部供用）の和田トンネル。渋滞緩和に役立つとともに、国道225号との立体交差は和田町に新しい表情を加えた。



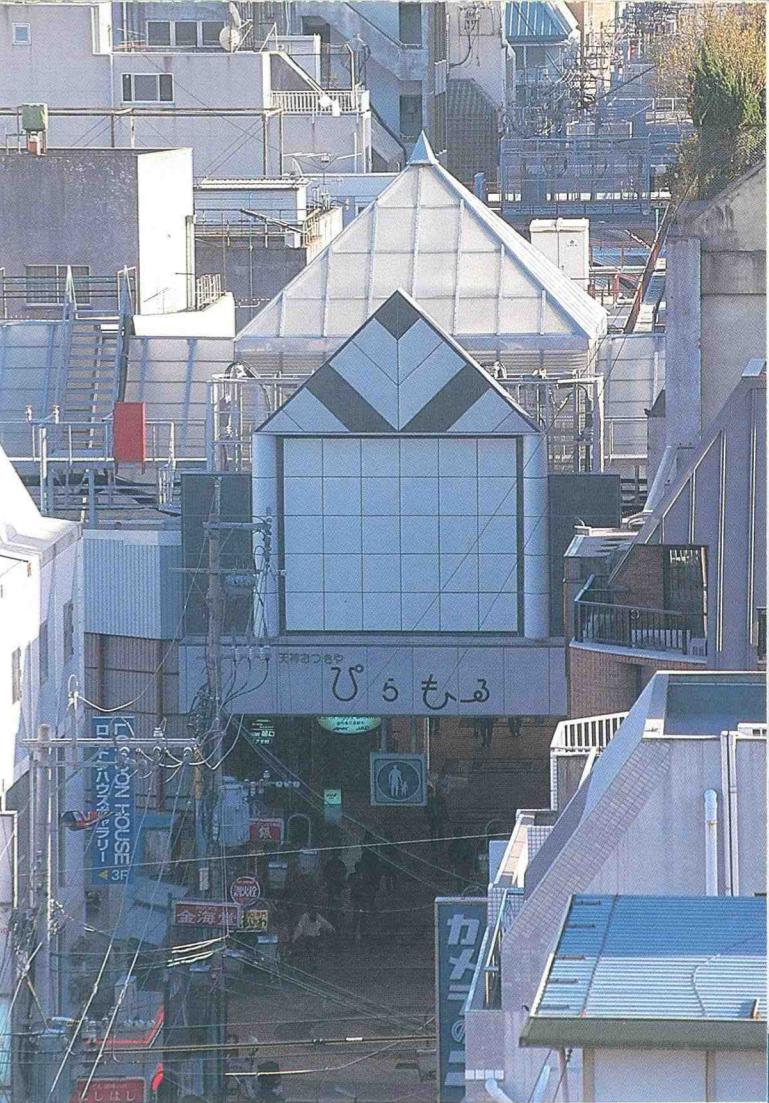
まちづくりに注がれるエネルギーが  
空間を超えて伝わってくる。



■永吉町に建設が進む「市民スポーツセンター（仮称）」。約6千人の観客を収容できるメインアリーナはスポーツはもちろん、コンベンション機能も備えた近代的なドーム型の建物。平成4年10月の完成が今から楽しみです。



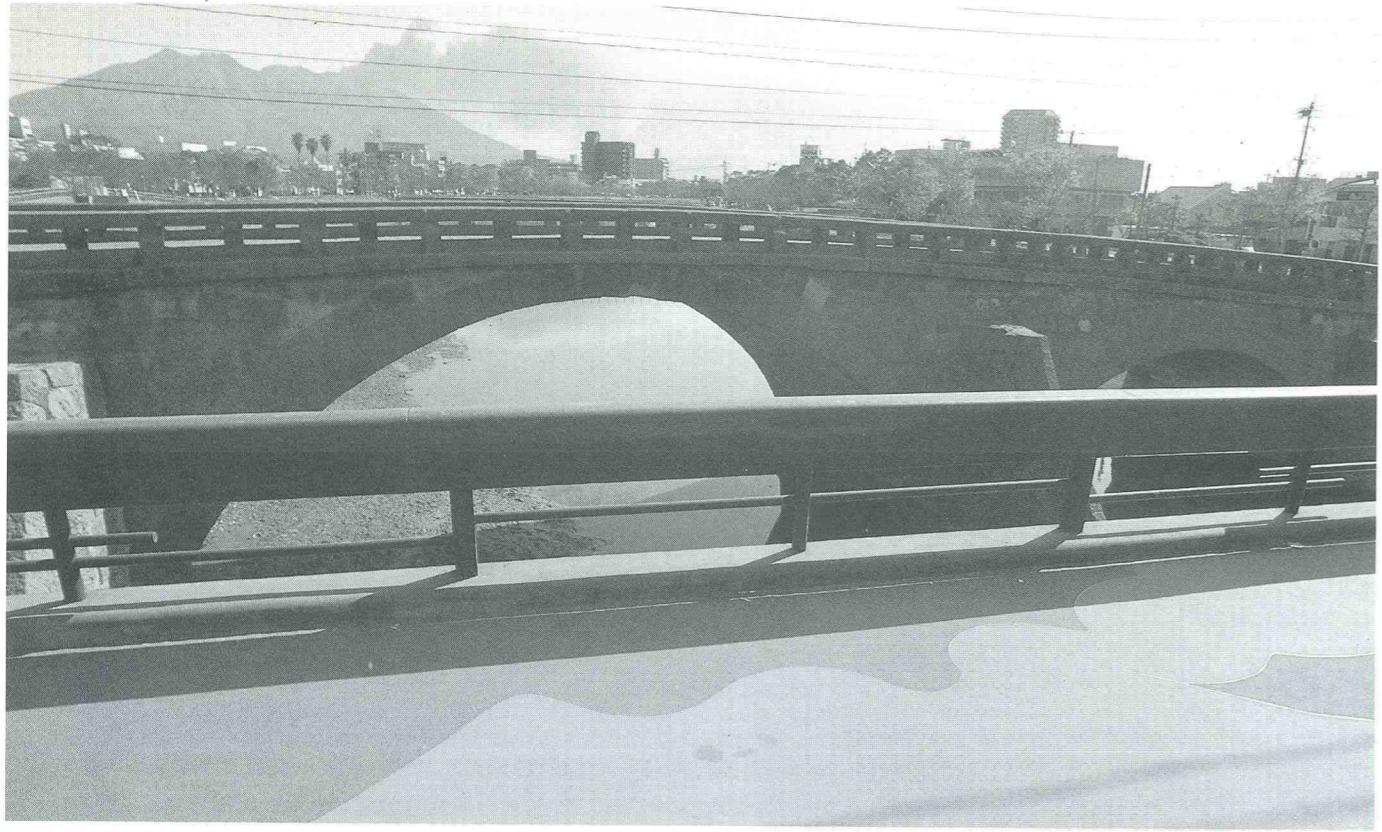
■平川町の錦江湾公園展望広場から平川ヨットハーバーを眺める。沖のヨットの帆が池に浮かぶ花びらのようにも見える。日本女性初の単独無寄港世界一周を目指している今給黎教子さんも、ここでヨットの腕を磨いた。錦江湾にはマリンスポーツが良く似合う。



■「ピラミッドパワーの威力で集客力アップ!?」。屋根の形をピラミッドに見立てた「天神おつきや びらもーる」。ここは、単なる買い物の場だけでなく、各種イベントや定例のミニコンサートの開催など、市民の憩いの空間として、楽しい話題を提供してくれるトレンディなアーケードでもある。



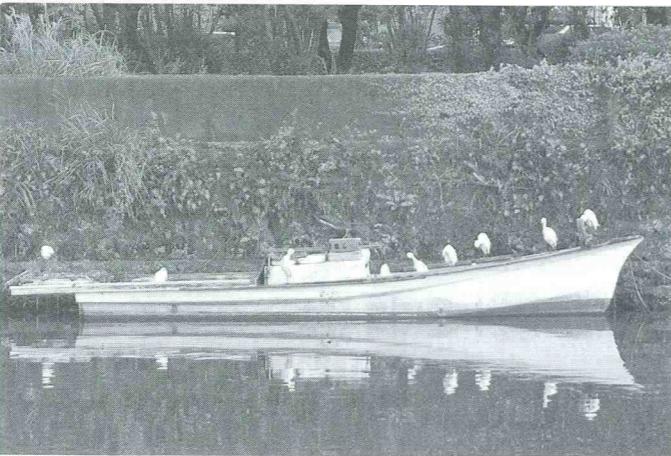
■薩摩焼の白と屋久杉の茶を基本に建物が林立する鴨池ニュータウン。直線に走る道路は、20年前まで活躍していた鴨池空港の滑走路があったところである。いまでは高層マンションなどが建ち並び、都会的雰囲気を持ったまちとして、まさに、これからの時代を象徴する新しいまちの姿が、ここ鴨池新町に数多く見られる。



■橋の上に桜島が出現! 実は、電車が走る新武之橋に描かれた桜島のレリーフです。遠くに見える本物の桜島と比べても、そっくりではありませんか?



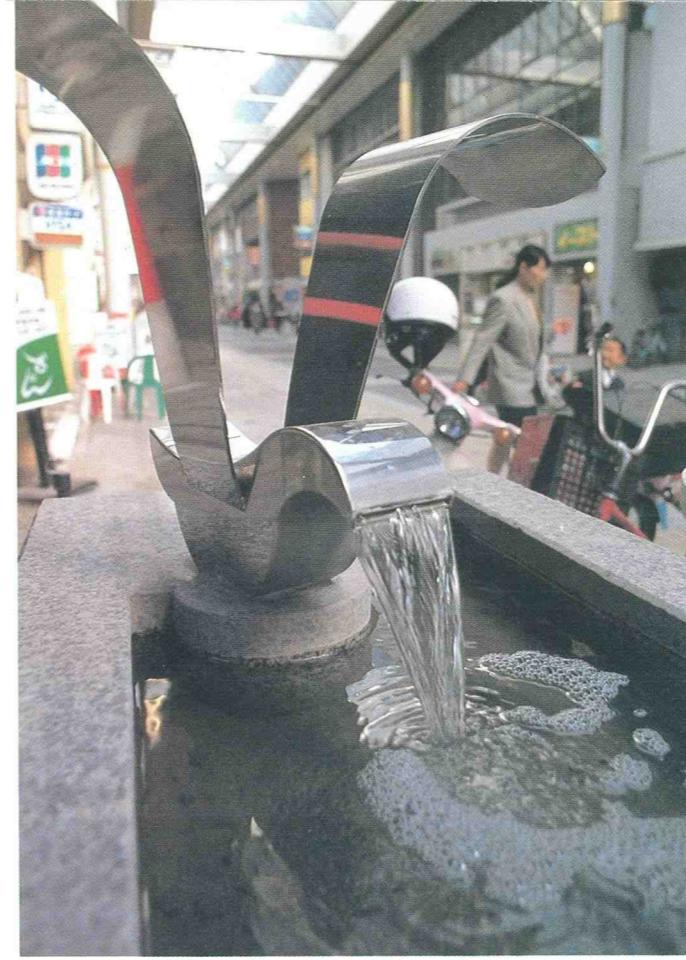
■鹿児島大学通りのクスの並木道。市内でも緑の多い大学周辺は閑静な住宅街。夏になると、クスの緑が地面に影をつくり出す。また、自動車の排気ガスにも負けないで、毎日新鮮な空気を供給してくれる『緑の財産を大切にしたいですね。』



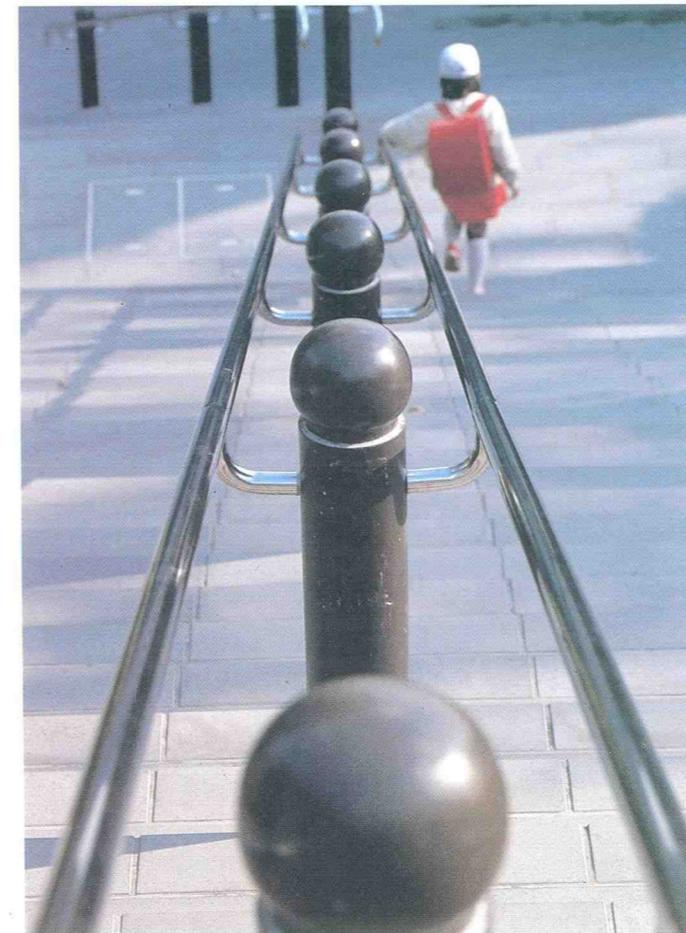
■谷山市民会館付近の和田川。夕暮れ間近に、ひっそりと浮かぶ漁船の上でサギが羽づくろいをしている。堤防と緑地帯の向こう側では産業道路をひっきりなしに車が走っている。静と動の世界。



■神社の鳥居のように見えるのは犬迫町に建設が進む「かごしま健康の森公園」(平成4年4月一部開園)へ向かう長さ90メートルのループ橋。健康づくりの拠点を結ぶ架け橋は、いま公園の完成をじっと待っている。



■「天神おつきやびらもーる」にあるミニ噴水は、さも、昔からそこにあったかのように静かに街に溶け込んでいる。涼しげな街のオアシスは、道行く人に都市の優しさと潤いを与えてくれる。



■南洲神社から大龍小学校へと向かう石畳みの階段には、柔らかな午後の日差しが斜めに差し込んでいた。整然と並んだ手すりは、街のオブジェとしての機能も果たしている。



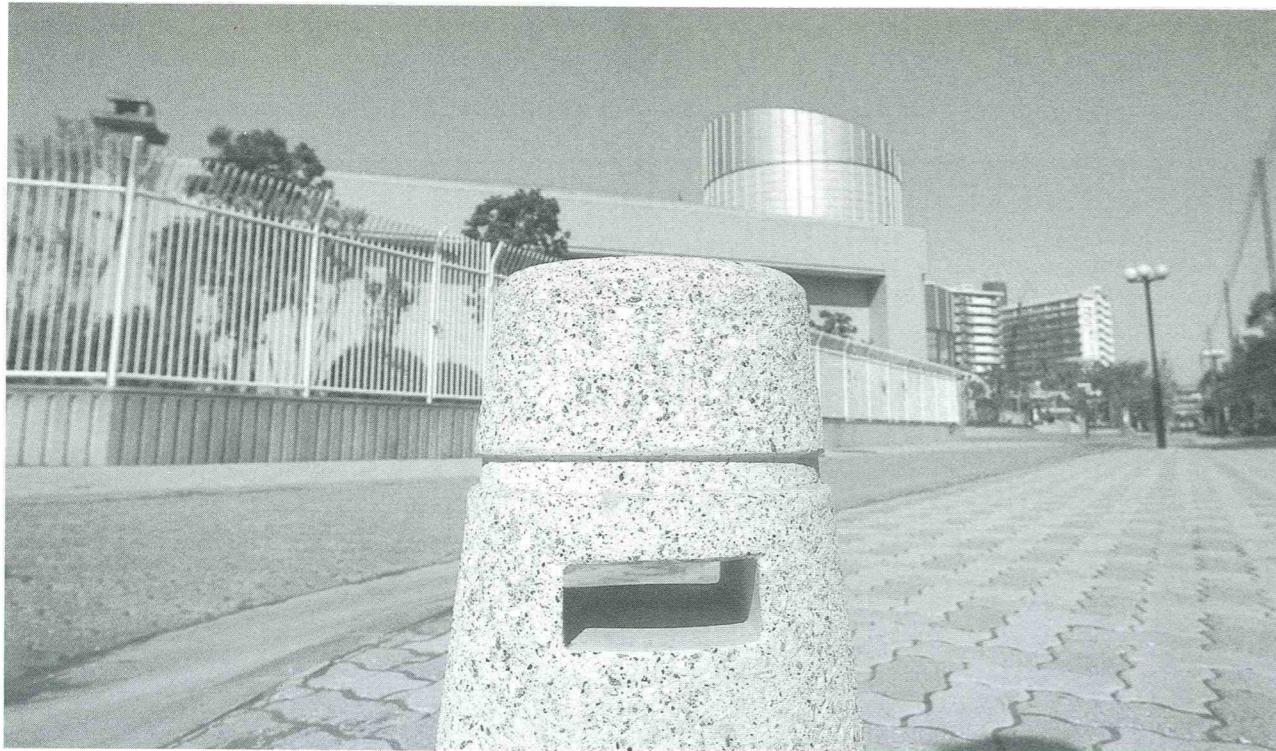
■バラの花が一輪咲いていた。ビルの谷間にある細長い清滝モールは周辺の建物とマッチした天文館公園につながる散歩道です。



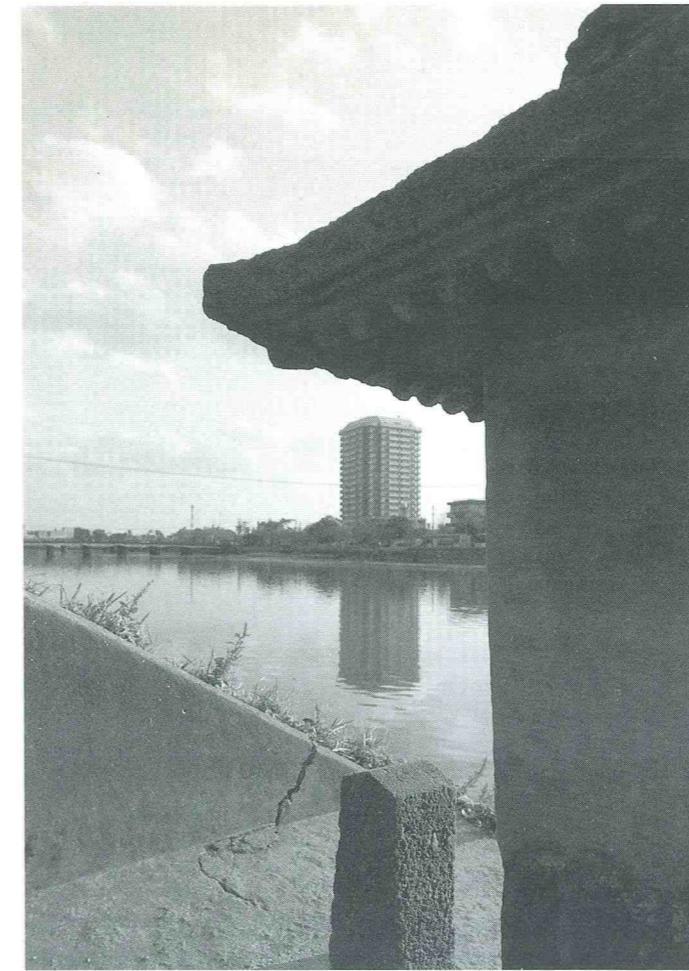
■電車線路上に突然エイリアン!? 本当は、中洲通り付近の市電センターポール建設工事の工事用表示器械。カメラのファインダーからのぞいた風景と自分たちの目の風景の違いが分かります。この数日後には、線路の中心にはセンターポールが建てられ、また違った風景が出来上がっていました。



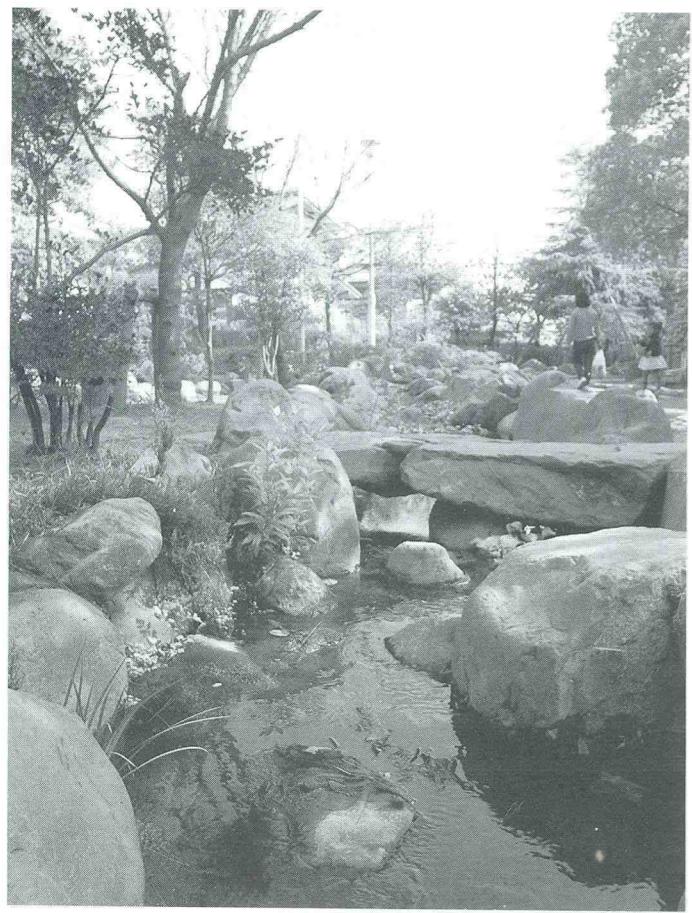
機能性ばかりでなく、潤いを与える工夫が生み出されている。



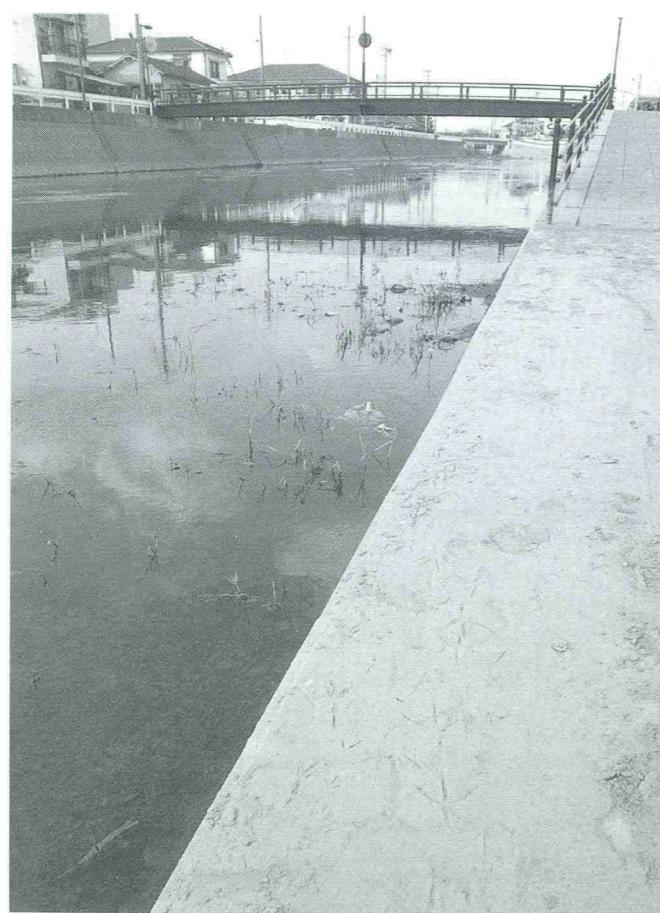
■平成2年12月、鴨池一丁目に開館した図書館・科学館。現代建築の粋を集めた館の雄姿は周辺の建物の中でも際立って見える。特に、青空に映える科学館の威容はビッグアイのシンボルマークのとおり、地球から宇宙を目指すイメージと科学知識の向上を感じさせる。手前にそびえる石塔は？実は、車が入らないために置いてある車止め。科学館へのプロムナードを飾る、小さな石づくり建築にも目を注いでみた。



■甲突川の流れを見つめる祠から鹿児島県内で一番ノッポのマンションを望む。日ごろ歩いていても気付かないもの。どこからでも見える大きな建物。虫の目から見たら、それらのものが逆転する。まちづくりにも応用できそうだ。



■星ヶ峯ニュータウンにあるせせらぎ公園の用水路。団地内とは思えない静けさとせせらぎの心地よさがうれしい。ホタルが飛び交う公園にしようと、エサになるカワニナやホタルの幼虫の放流、用水路を汚さない努力が続けられている。



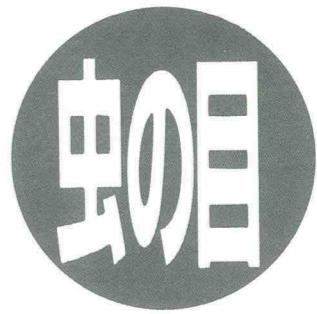
■谷山塩屋町の木之下川の親水護岸。河原のようなコンクリート部分にうっすらと泥がたまり、鳥と人の足跡が混じり合う。川の浄化も進められており、もっと水辺が身近になっていくだろう。



■四季折々の花が咲き、広場やフィールドアスレチックに歓声が響きわたる錦江湾公園。展望広場では息を切らして登ってきた人々が素晴らしい眺めに感嘆の声をあげる。やさしい野菊が展望広場に雰囲気を添えている。



■市役所前で。点字ブロックが歩道のタイルにさりげなくなじんでいる。目の不自由な方の安全をしっかりと確保してほしい。歩道にもカラーチャイルドが使われたり、イラストが描かれていたりと、周囲との調和や個性が生まれようとしている。



心を豊かにする、生きるものへの  
やさしさと心配りを感じる。

# クローズアップ

## 小林千鶴さん

昨年春、県内では初の女性の公認会計士となつた

公認会計士を通じて、自らの可能性を広げていきたい。



「ちょうど一歳になる子供の育児が楽しくて」――。仕事に加え、主婦、母親と一人三役をこなす小林千鶴さんは、子育てに追われながらも充実する日々を笑顔いっぱいです。

小林さんは昨年春、県内初の女性公認会計士となつた。国家試験の中でも難関と呼ばれる公認会計士の資格。県内でもまだ二十六人しかいない。だが、本人は周囲が騒ぐほど意識していない様子だ。

「それほど、たいしたことじゃありません。プレッシャーより、騒がれることの方が恥ずかしいです」と言いい、照れくさそうな表情になる。

現在、市内にある中央新光監査法人鹿児島事務所へ週二回通う。大学では商学部に在籍したが、公

男性社員と給料の差が出た。「同じように働いているのに…」。それで男性社会を意識することがなかつた小林さんだけに、女性の限界を痛切に感じたという。「仕事もしたいが、今後結婚もしたいし、子供もほしい。資格があれば、いつでも働ける」。この出来事をきっかけに資格を取得しようと決意した。

六十年九月に会社を退職後、大学時代に会計学、原価計算などを専攻していた関係から公認会計士への道を目指すことにした。十九ヶ月間、東京で専門の予備校に通い、二次試験に合格。その後、三次試験のため、東京・鹿児島の会計士事務所などで三年間実務研修を積んだ。そして、平成二年十月に筆記試験、昨年一月の口頭試験を見事に突破した。

順風満帆に来たようだが、実は苦労も多かった。元年十月には鹿児島の泰之さんとの結婚や、大外科医の泰之さんは「一生仕事を続けて、自分の可能性を広げていきたい」と思っていたが、当時を振り返る。

小林さんは今、事務所の内勤で企業の財務諸表チェックや報告書作成などを担当しているが、主婦感

覚を持ち合わせて仕事をやっていきたいと話す。「クレジット社会にマッチした、使いやすい家計簿をつくり出せないかと研究しています」と意欲的だ。

育児と仕事の両立はしんどいと実感しつつも、泰之さんの助けと寂しがりやの佳史くんとのスキンシップが何よりも疲れをいやしてくれるらしい。休日も三人で公園や温泉に行ったりと、やはり子供を中心の生活。県内初の女性会計士も子育てに奮闘する熱中ママで、佳史くんのことを話す姿が、今は一番輝いて見える。

文／小田一仁・時事通信社記者

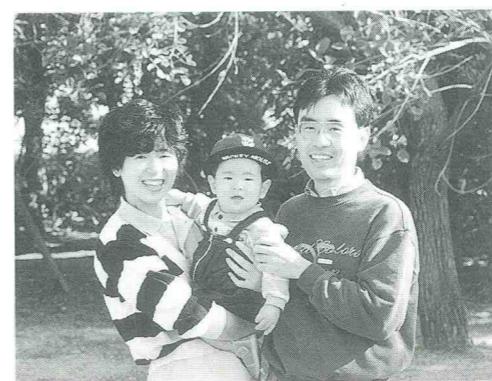
### ●プロフィール

鹿屋市出身。一橋大学商学部を卒業後、東京で二年半、会社に勤務。

退職後、公認会計士を目指して受験勉強を始め、一次試験、実務研修、三次試験を経て、昨年四月に公認会

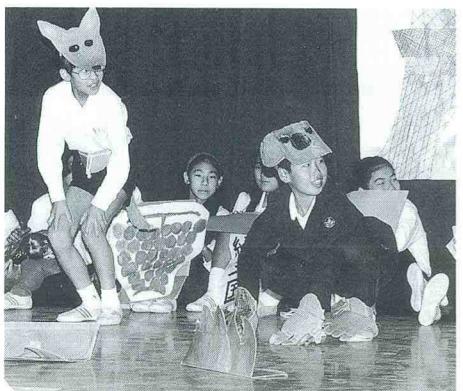
務所に勤務。仕事、主婦、母親の一人生で、今のところ、仕事よりも育児にエネルギーを費やす毎日。将来、小さなながらも自分の事務所を持つのが夢。

鴨池新町の自宅に、外科医のご主人と一歳になる長男との三人暮らし。三十歳。





▲学校自慢の矢上の森・アスレチック自然教室にて緑陰読書を楽しむ。



▲ぼくがコアラのフウタ!です。

～学習発表会にて熱演～



▲私たち、気分はウィーン少年合唱隊です。



▲待ちかねた給食時間。でも、ゆっくりかんで食べてね。

あります。

ここには、遊具施設がいっぱい

ありました。年月がたって古くなつたのを機会に、平成二年にア

スレチック自然教室として改修しました。

これまでに、先生方と児童が一

緒になって、花だんや農園の設置、

花植え、それにキンカンやカキの植

樹もしました。平成三年六月には、

お父さん、お母さんも加わって、

サザンカやツバキ、キンモクセイ

など約百七十本の四季の花や木を

植えました。また、小鳥の楽園に

するための巣箱づくりなど、アス

レチック自然教室でのさまざまな

学習は、自然に親しむ意味でも、

とてもいい勉強になります。

私たちが一生けん命がんばって

植えた苗がりっぱに成長し、やがて、花と緑いっぱいのすばらしい

自然教室になるのが本当に楽しみ

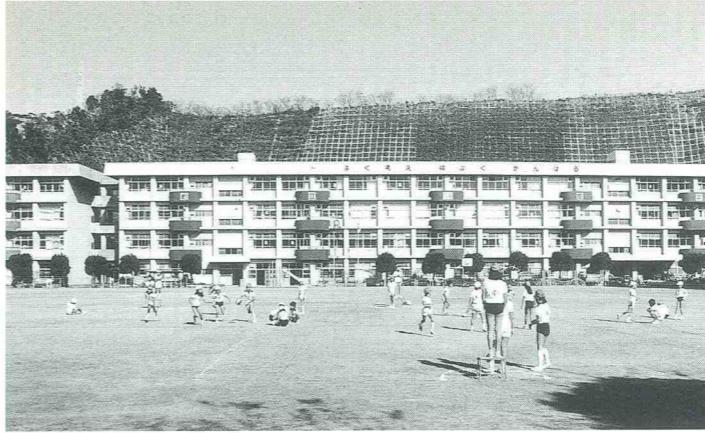
です。

また、平成三年の秋に、全国花いっぱいコンクールで内閣総理大臣賞を受賞できたのも、みんなで愛情をこめて花や木を育ててきたおかげだと思います。

これからも、勉強やスポーツに

はげむとともに、この坂元小を美しい季節の花や木でいっぱいの学

校にしていきたいと思います。

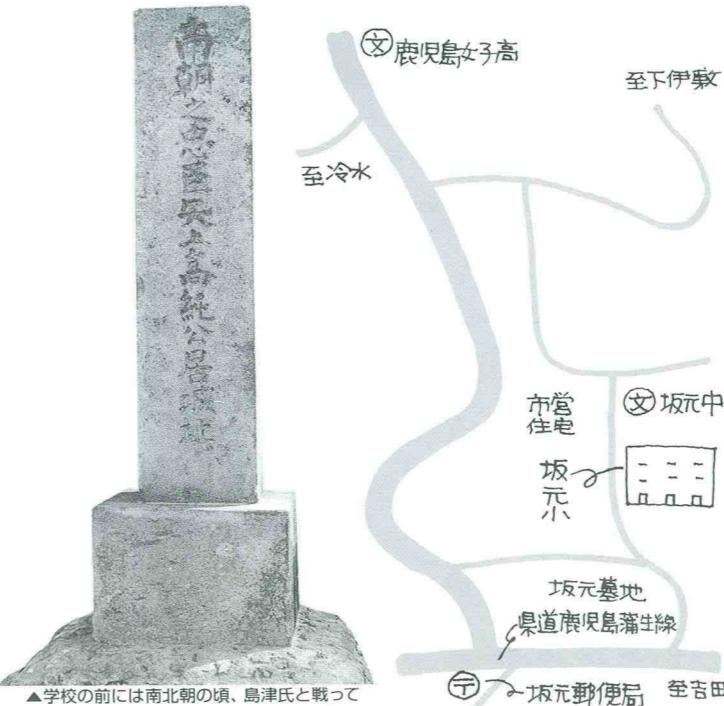


▲平成3年の10月には、全国花いっぱいコンクールで最優秀賞に輝く。



# 学校探訪

● 創立：昭和四十九年一月十日  
● 児童数：九百六十六人（平成三年十二月一日現在）



▲学校の前には南北朝の頃、島津氏と戦って玉碎した矢上左右衛門高純氏の城社碑がある。

## 花と緑いっぱいの坂元小学校

六年 西村朋子さん

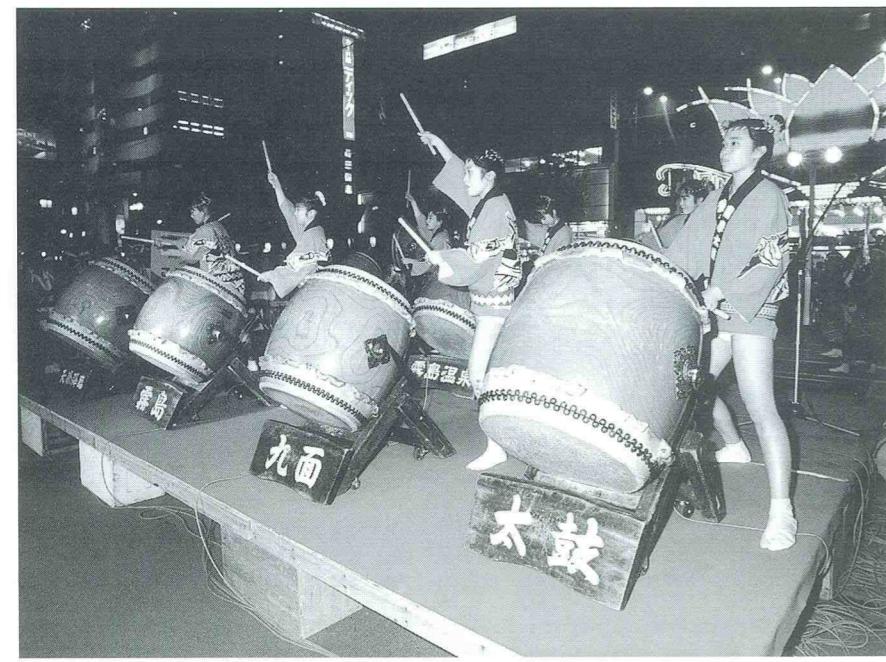
私たちの坂元小学校は、玉里団地の中に入り、花と緑のすばらしい環境に恵まれた学校です。

現在は学級数二十八、全児童数九百六十六名ですが、昭和六十年に坂元台小学校と分離する前は、児童数一千二百名という日本でも有数のマンモス校でした。

坂元小は、住宅団地の中にありながら、学校のすぐ東側に「矢上の森」というアスレチック自然教室がありましたが、現在は学級数二十八、全児童数九百六十六名ですが、昭和六十年に坂元台小学校と分離する前は、児童数一千二百名という日本でも有数のマンモス校でした。

坂元小は、住宅団地の中にありながら、学校のすぐ東側に「矢上の森」というアスレチック自然教室があります。

# カメラトピックス



11月2日～3日・60万人の人出でにぎわった「おはら祭」。  
好天のもと、おはら祭が2～3日の両日、盛大に行われました。今回は40回を記念して、2日の前夜祭では初の「おはらおごじょ太鼓」の共演があり、威勢のいい太鼓の音が秋の夜空に響きわたり、祭りを盛り上げました。

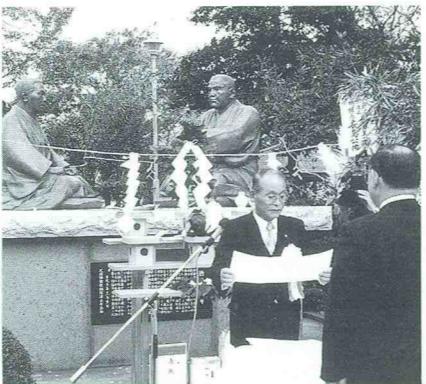
11月23日・シェイプアップ! さわやかに健康づくり  
市民みんなで楽しむ第6回市民生き生き健康フェスティバルが県立鶴池陸上競技場で開かれ、だれもが、いつでも、どこでもできる健康体操やレクリエーション、ジョギングなどに親子連れや多くの市民が心地よい汗を流していました。



9月16日・声援をバックにハッスル!  
第25回身体障害者体育大会が県立鶴池陸上競技場で行われ、競技者は周囲の温かい声援を受けながら自分の体力の限界に挑戦していました。参加した皆さん、和気あいあいとした雰囲気のなかでスポーツの秋を満喫していました。



9月22日・初の上町フェスティバル  
上町を盛り上げようと、南洲公園入口前で「かごしま“遊々”かんまつまい」が行われました。プラスバンドによる演奏や地区町内会などによる総踊りも披露され、地域興しの初めての祭りを楽しみました。



11月2日・西郷隆盛と菅臥牛の対話像除幕式  
戊辰戦争が縁で交流を続けた西郷隆盛と庄内藩(山形県)の家老・菅臥牛(すげがぎゆう)の銅像の除幕式が西郷公園で山形県鶴岡市の関係者など、およそ200人が出席して行われました。鹿児島市と鶴岡市は2人の縁にちなみ、昭和44年に兄弟都市盟約を結んでいます。



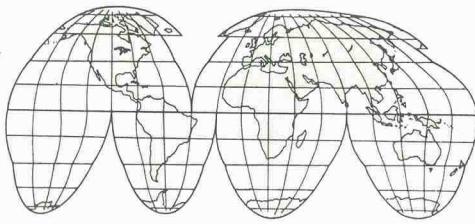
10月5日・持明院様(じめさま)の命日に化粧直し  
市立美術館の前庭にある持明院様(18代藩主島津家久の妻)の石像の化粧直しがありました。明るく心やさしい人柄が慕われ、今でも持明院様にあやかろうとする人々のお参りが絶えません。



10月10日～15日・火山めぐりヨットレース  
噴煙を上げる桜島をバックに'91鹿児島カップ火山めぐりヨットレースが行われました。これに合わせて今回は女性の目から見たウォーターフロントや、まちづくりの感想・提言を生かそうと船上で第1回洋上レディースフォーラムが開催されました。

# カメラトピックス

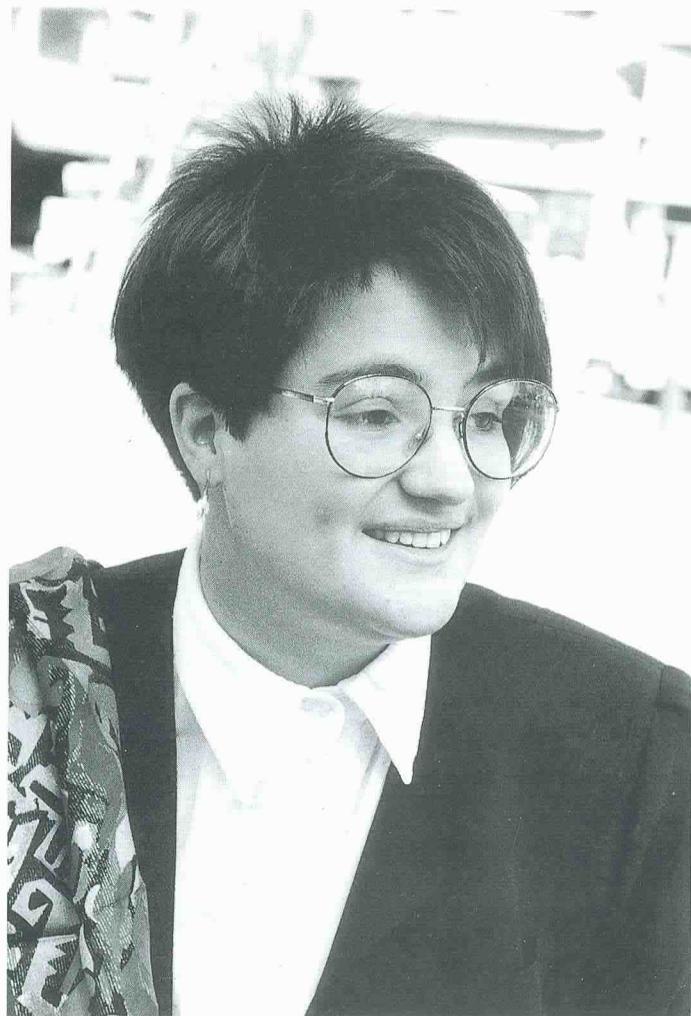
HELLO.



-KAGOSHIMA

# 八口一鹿兒島

ターニヤ・バツハさん(ドイツ)



でいる。「一人でも、二人でも、外國の人と話して、同じ空間を分かち合うことから國際交流は始まるのではないでしようか」。

これからこの課題は、自分の言いたいことを的確に表現できるよう、日本語を磨くこと。「鹿児島の男性も、照れずに口に出して女性をほめなきや」。ユーモアあふれる中に、鋭い観察力をのぞかせた。

にかかることはほんとない。なぜなら、どこに行つても、そこが故郷だという気持ちを持つてゐるから。今は鹿児島が故郷。周りの人びとと自然にふれあい、会話を楽しん

いう。彼女のモットー「泣いても笑つても同じ人生なら、笑つて過ごそう」という言葉どおり、何事にも前向きに、元気よく、ぶつかつていく。

もしも動物に生まれ変われるなら？ 迷わず「大空を翔ける鳥になら」と答える。今まで歩んできただように。

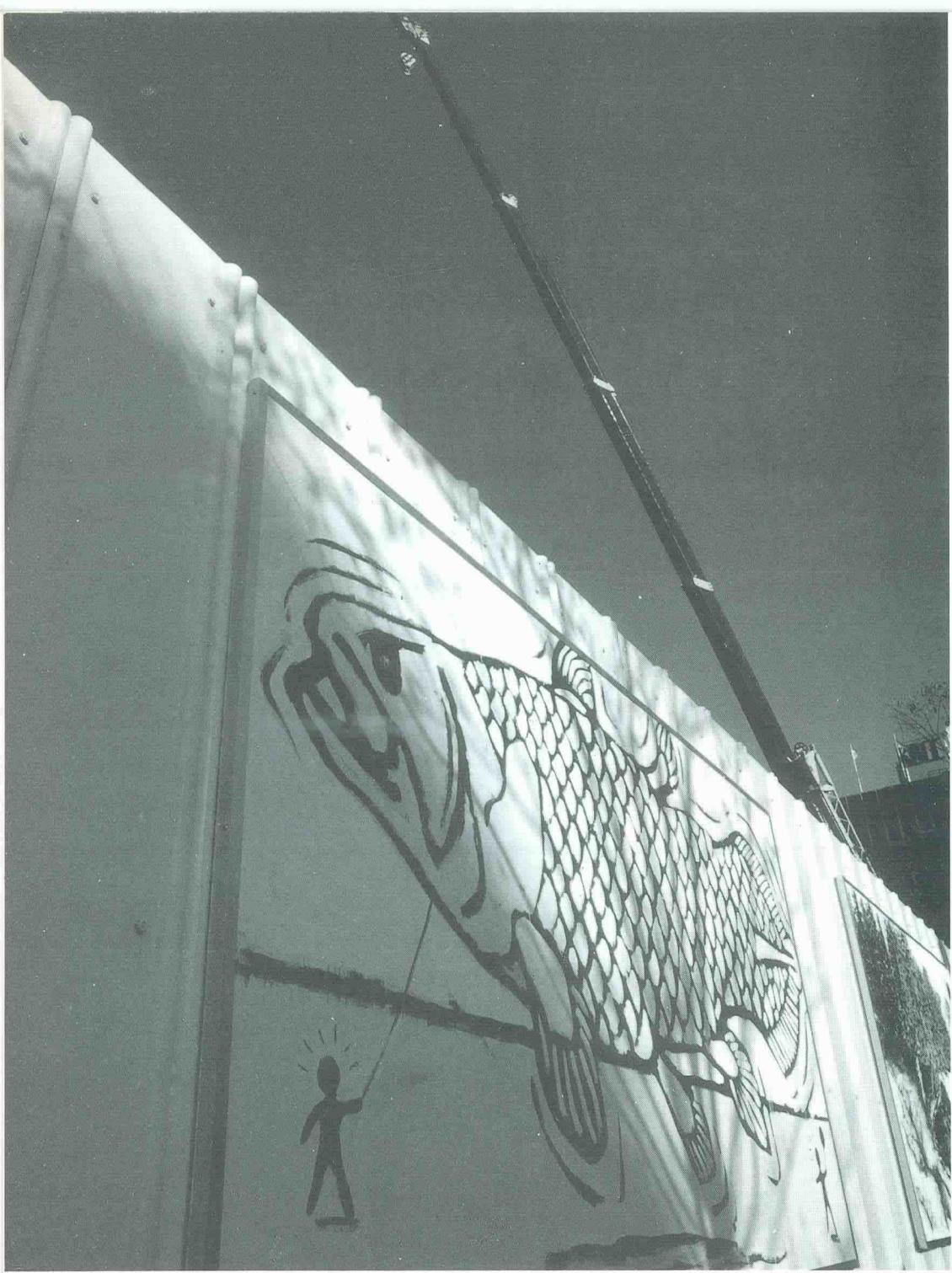
生まれはドイツだが、三歳まで  
神戸で育ち、その後イスイスへ移り、  
高校時代まで過ごした。そして、  
アメリカの大学を卒業後、国際交

流アドバイザーとして来鹿。まさに渡り鳥の如く、国境を越えて生きてきた。おかげで「旅が大好き。世界中をまわるのが夢」という。

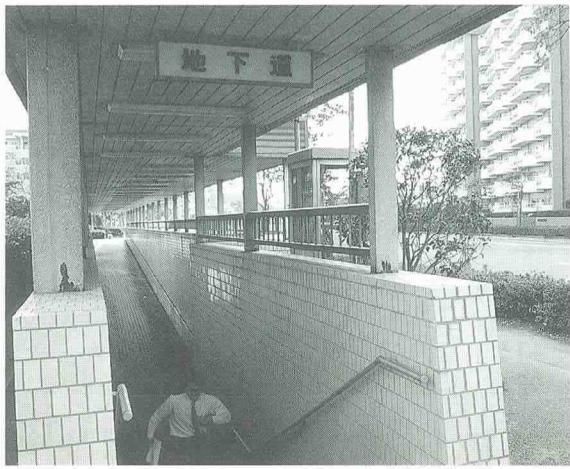
バイクや車で出かけている。「夾竹桃(市花)も南国らしくて好きです。美しい花に魅せられて、現在生け花を修行中だ。そのほか、お茶や

city angle

シティ  
ア  
ン  
グ  
ル



▲巨大魚をクレーンで釣り上げる?  
～中央地下駐車場工事現場の絵画～



▲県内唯一の地下道～鴨池新町～



▲乾燥前に整列～谷山塩屋町にて～



# わたしの散歩道

ジョギングウェアに身を包んだ元気な岩崎さんを  
横からパチリ!

道すがら、散歩している人に気さくに声をかける岩崎さん



温かみのある人柄が笑顔からこぼれる

▼取材メモ

手近で四季の自然にふれること  
ができる、一番好きな城山。

本県経済界の振興、発展に尽力して  
いる。

「継続は力なり」です。

うにも思われますね。

ある意味では、城山の自然は、まちの「四季」を見守り続けていける市民の貴重な財産とも言えるでしょう。

まちづくりも、大きな木を育てるように、十年、二十年といった長い気持ちを持ちながら進めていかなければなりません。

錦江湾。城山展望台は、市街地が一望できる素晴らしい所です。

ここから見ると、まちの勢いは現在、南の方へ伸びています。

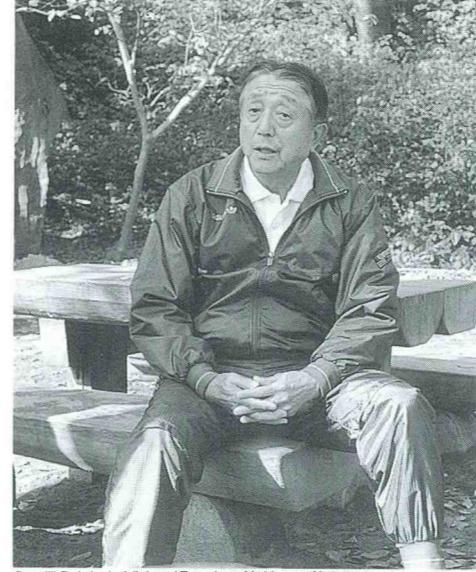
鹿児島の北への拠点は何といつても上町周辺。今後の開発に大きな期待を寄せてています。

そして、まち全体にはもつと若い人に魅力があり、活気あるまちづくりをしていかなければなりません。きれいなアーケードの中は歩く人の様子も楽しそうで、降灰には大きな役割を果たしています

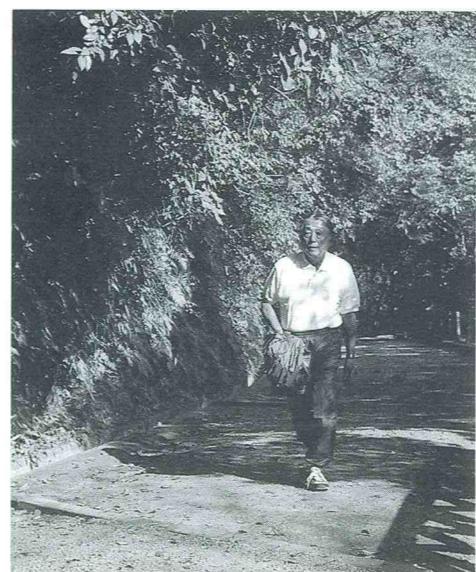
やはり本市の主役は夏です  
灰に影響されない地下街も今後  
は必要ですね。中央公園地下駐車  
場は、その先駆けとなるでしょう。  
いよいよ、新幹線もやってくる  
鹿児島市。これから十年は市街  
地も変わるでしょうし、変わらな  
いといけません。

戦災で焼失したこのまちが、現  
在こんなに大きくなつたのです。  
これからは、鹿児島ならではの  
ものを“継続”してつくつていかな  
ければなりません。

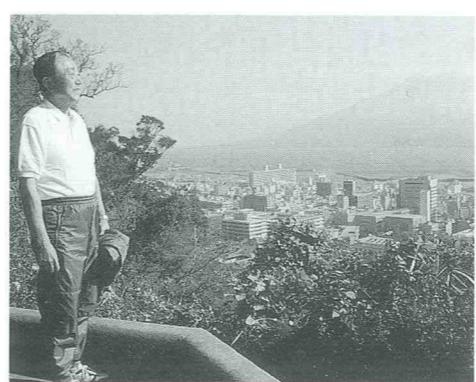
市民、行政、民間が一体となつ  
た、まちづくりを目指して……。



うつそうとした城山の緑の中で若者への夢を語る



遊歩道のまん中ぐらいが一番きつい



何といっても、城山展望台の眺めは最高です

小学生のころは、よくこの城山に登りましたね。上の広場に時刻を知らせる大砲があり、これに新聞紙を詰めてドーンと鳴らし、市民に正午の時刻を知らせていましたことを覚えています。

子供時代は城山はシンボル的存在で、最高の遊び場でしたよ。

それから幾許、いま、わたしは健康づくりのために暇を見つけては、夕方に、この遊歩道をジョギングです。

え、自然の恵みが感じられる城山。まさに、ここは歴史性、自然環境と出会える接点とも言うべき所ですね。

しかし、冬場は夕暮れの時間が早く、次第に暗くなるころ走っていると、西南の役の亡靈が出るのではないかと思うほど、ちょっと怖い思いをします。

ぜひ、遊歩道に街灯をつけていただきたい。忙しい人も夕方の散

がまた一つ増えることでしょう。

多くの若者が露と消えていった  
城山。歩いていると、若い人たち  
が一生懸命に生きていた時代のこ  
とを、ふと想います。

質実剛健の良い氣風を、いまの  
子供たちに伝え引き継いでいくこ  
とは、我々の役割だと思います。

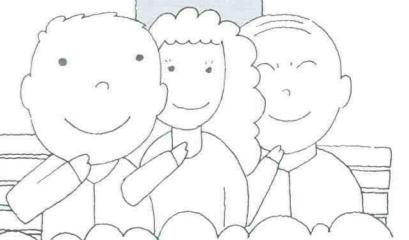
進学一本槍の受験勉強も必要か  
もしれませんが、鹿児島には、ま

古いものを大切にしながら、何事にも一生懸命に取り組む姿勢やその精神を養い、伝えたい！大都会にないものを鹿児島は、たくさん持っているのです。

**何事も“継続は力なり”です！** 鹿児島商工会議所会頭 岩崎福二さん

# 市民のひろば

「市民のひろば」はMBCから放送されます。  
放送日時は、毎月第三日曜日を除く日曜日の  
午前十時三十分から十五分間。ただし、第四  
日曜日は三十分間。（この番組は、平成三年十  
月二十七日に放送したものです）



**【出演者】**敬称略  
福元 登  
佐々木 利光（東桜島・島廻り節保存会代表）  
西田 秀雄（中山町下虚無僧踊り保存会代表）  
木原 三郎（鹿児島市文化財審議会委員）  
赤崎 義則（鹿児島市長）  
上野 知子（司会）

## 郷土に根づく 民俗芸能

地域の昔からの生活・風俗・習慣の中から生まれてきた民俗芸能。

私たちの祖先がつくり、引き継いできた、このような郷土芸能は、絶やすことなく伝承していく必要があります。

番組では、市長とゲストが民俗芸能の魅力、そして、保存会の活動などについて語り合います。

### ●五石橋の建設にちなんだ 西田橋・地つき唄

上野 歴史のまち鹿児島市には、昔からの暮らしや民俗・風習などをしのばせる伝統芸能が今でも数多く残っています。

西田橋・地つき唄

唄をご覧いただきましたが、市長

活の中から生まれたものだという

ことがよくわかります。

民俗芸能は、そこに住む人の生

れています。

さん、いかがでしたか。

市長 昔は、あちこちで見かけた

地つきも建築技術等が変わり、最

近では見かけなくなりましたので、

大変なつかしく感じました。

民俗芸能は、そこに住む人の生

れています。

さん、いかがでしたか。

カルで勇壮であることなどです。

**上野** 西田さんのところでは、後継者対策はいかがですか。

**西田** 今年からOBの方々にも、伝統を引き継いでいきたいと考えています。

### ● 桜島一周の船漕ぎ競争で応援に歌い踊られた

**上野** 東桜島の島廻り節の由来はどうしたことからですか。

**佐々木** 大正三年の大噴火以前は桜島は孤島で、當時あつた十四人



中山町下虚無僧踊り

**上野** 市長さん、虚無僧踊りと島廻り節をご覧になつて、いかがで

五の集落が旧暦の彼岸の中日に船を出して、島一周の船漕ぎ競争をしていたらしいです。

島廻り節は、その時の応援の歌と踊りで、当時は各集落ごとにあつたらしいのですが、今では、うちだけが残っています。

その当時は、年頃の娘さんたちだけで踊っていたようですが、現在は、そういう人たちがなかなか集まらなくて。最近、あちこちで復活させるような話を聞いています。

**上野** 伝統を継承することも大切ですが、掘り起こして

いくこともまた大事ですか。

**木原** 沖縄方面に船漕ぎ競争というのがありますが、娘さんが着飾つて二才どんを応援する踊りはほとんど見られないで

すね。独特の踊りで、優れた文化財ですのでどうしても残してほしいです。市長さん、虚無僧踊りと島廻り節をご覧になつて、いかがで

すか。

**市長** 虚無僧踊りには薩摩の一つの歴史というものを感じます。薩摩の気質がそのまま踊りに現れた勇壮なもので、ワクワクしてきます。

島廻り節は、大正三年の大爆発以前に桜島の人々が一生懸命になつて応援した光景が目に浮かび、そして、村の名誉をかけて頑張った気持ちというのが肌に伝わってきます。

私たちの祖先は、土から生まれた素晴らしい芸能をつくってくれたな、という気持ちです。

**上野** 皆さんは後継者対策というのは、どうしておられますか。

**佐々木** 小学四年生から教えてい

るのですが、成長すると、よそに出ていくので困っています。

今は、Uターンしてきた若い奥さんや嫁いできた奥さんたちに、できるだけ多く参加してもらい、島廻り節を継承していきたいと考えています。

**福元** 保存会として郷土芸能を保存・継承していくことはもちろんですが、いままで個々に活動している保存会が一致協力して、いま

### ● 発表の場を広げていくことが大事

**上野** 木原さん、郷土芸能の発表の場というのも必要ですね。

**木原** そうです。ホゼ祭り、六月灯などの年中行事を利用したり、学校の運動会・体育祭、校区の文化祭などでも取り上げていただきたいです。

また、地域公民館の文化祭や市主催のふるさと芸能祭など、いろいろな機会をとらえて、なるべく多く踊つていただきたいですね。

**上野** 佐々木さんのところは子供さんが多いので、発表の場があれば張り切るのではないかですか。

**佐々木** 踊りの場で、化粧して衣装を付けるときのうれしそうな顔は何とも言えませんね。

大きくなつて、必ず思い出すと思います。

**上野** 伝統芸能を大切に保存していくためには、皆さん横の連携というのも大切になりますね。

**市長** そうですね。着実に次の世代に伝えていくことも行政の責任だと思いますので、これからもさらに努力したいと思っています。

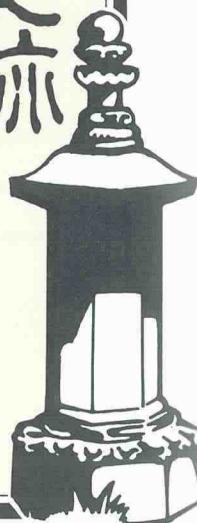
民俗芸能があればご覧になつて、そして、是非参加していただきたいと思います。



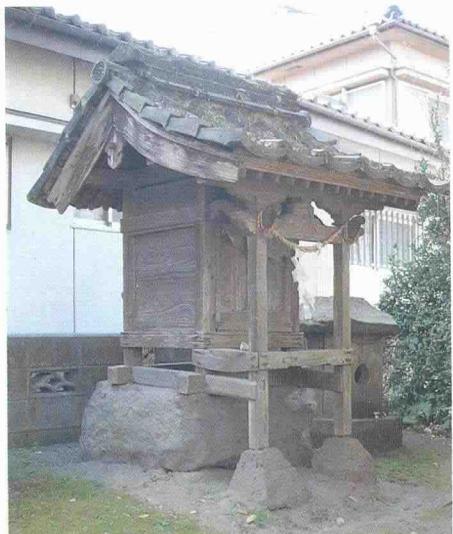
東桜島・島廻り節

今日はみなさん、ありがとうございました。

# ふるさとの史跡



① 伊佐智佐神社社殿



③ 脇宮



② 鳥居から参道を望む

伊佐智佐神社は、和田町和田名にある。薩摩国太宰府領の五社の一つで、谷山の惣鎮守の神社とし

て古くから住民に親しまれてきた。神社史によれば、祭神は伊邪那岐命、事解男命、速玉男命の三神で、

熊野本宮、新宮(和歌山県)を合祀し、正一位伊佐智佐六所權現と呼ばれている。熊野本宮、新宮の六

所を瀬戸山、竹之内の両氏が薩摩郡蘭牟田に勧請し、その後、志布志、佐多に移り、最後にここ玉林城(別名神前城)に鎮座し、和田村三十町が神領とされたとある。

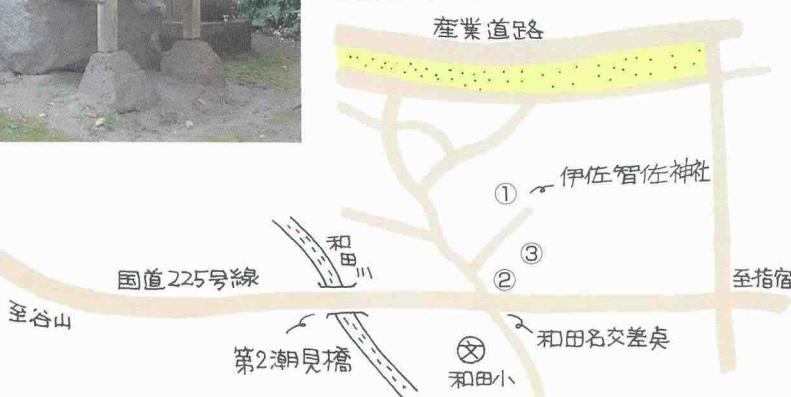
正祭は、旧暦九月九日、この神社の浜下りは、郡元の一宮神社、荒田八幡神社と共に鹿児島の三大浜下りの一つといわれ、豊祭(放生会)に行われた。浜下りの神輿は、海浜久津輪崎(市民体育館付近)に臨幸し、ここで神樂を奏し神舞が奉納された。

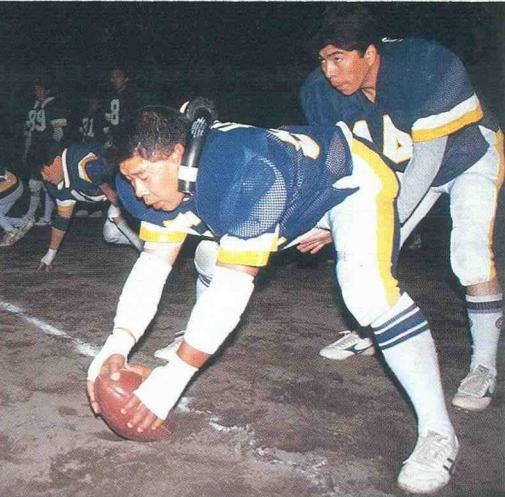
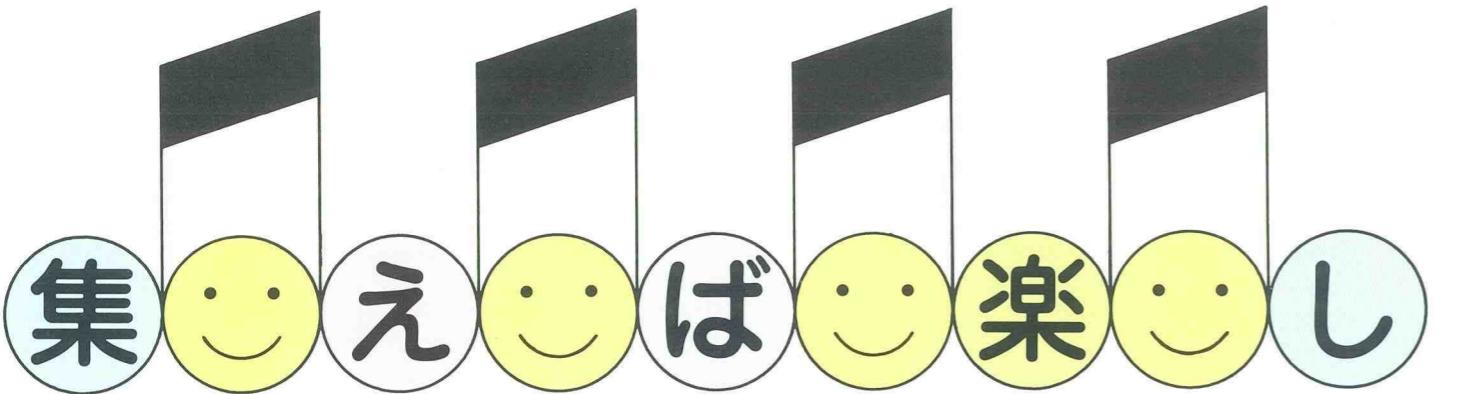
神輿の行列は松崎町(谷山本通り)を経て、谷山小学校まで進められた。先行の露はらい、宝物持ち、矛持ち、傘持ち、それに武者行列も続いて盛大であった。

玉林城一帯の山は切り崩され、児童公園と宅地になり、昔日の面影は残っていない。

## 古い創建の伊佐智佐神社

市文化財審議会委員 木原三郎





# 鹿児島の大地に タッチダウン！

アメリカンフットボールチーム

**鹿児島サザンロケッツ**

三十人の大勢の部員に、マネー 出発だったといいます。

ジャ一四人が花を添える、県内初 とにかく、アメフトが大好きな

のアメリカンフットボールチーム 「鹿児島サザンロケッツ」。

その名のとおり、メンバーは格 好いいスポーツマンぞろい。

しかし、アメリカンフットボール (略してアメフト) の経験者は数人 足らず。一式七万円の防具や練習

道具の調達など、最初は無からの 底冷えのする取材当日の午後七

時。集まつたアメフトマンは、こ の日は十七人です。

冷えた土の上で柔軟体操を軽 くこなし、ダッシュの連続！

とにかく肩のようなプロテクター

に身を包み、気合いの入った声が 静かな公園内に響きわたります。

主将の有山貴史さんは、白い息 を弾ませながら「高山、枕崎などか

らメンバーが集まつきます。み

んな好きだから、いくら遠くても…。

これまで二試合を消化。早く一勝

の名乗りをあげたい」と、アメリカ

ンフットボールに傾ける情熱を語

ります。

アメフトの歴史を鹿児島に着実

に刻んでいるサザンロケッツは、

その「点火した明かり」を消さない

よう、いま一丸となつた練習に

汗を流しています。

やる気がある人は、ぜひ入会を

して、見事なタッチダウンを奪つ

てみませんか。

# あなたのフォトサロン



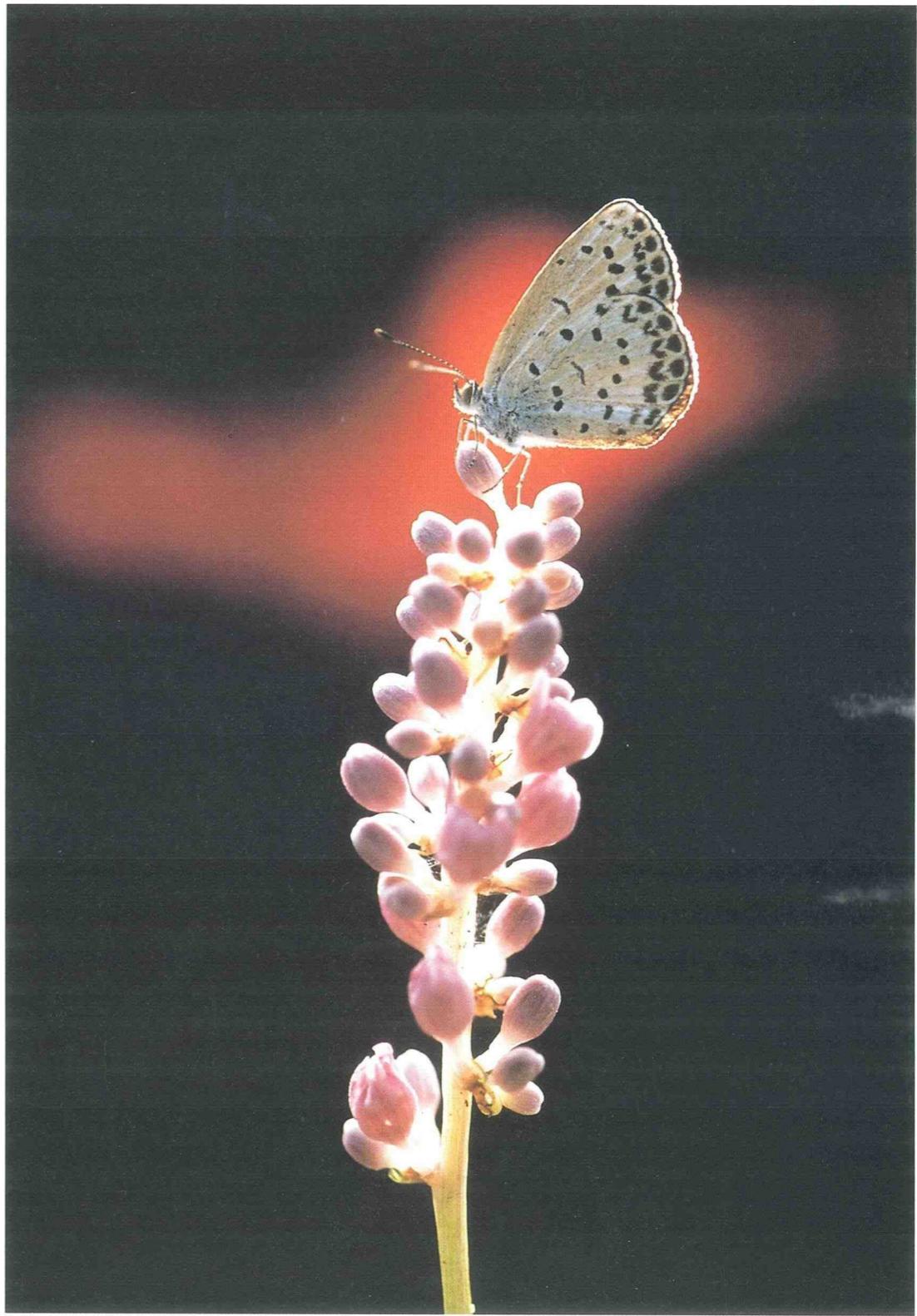
ハクモクレン(指宿市魚見岳) ソフトレンズ85mm×2 f 2.8



カラーとアマガエル(肝属郡) マクロ200mm f 5.6



レンゲ(姶良郡蒲生町) マクロ200mm f 4



シジミチョウ(川辺町清水) マクロ200mm f 5.6

写真と文／後藤卓男さん

「自然の美を求めて」

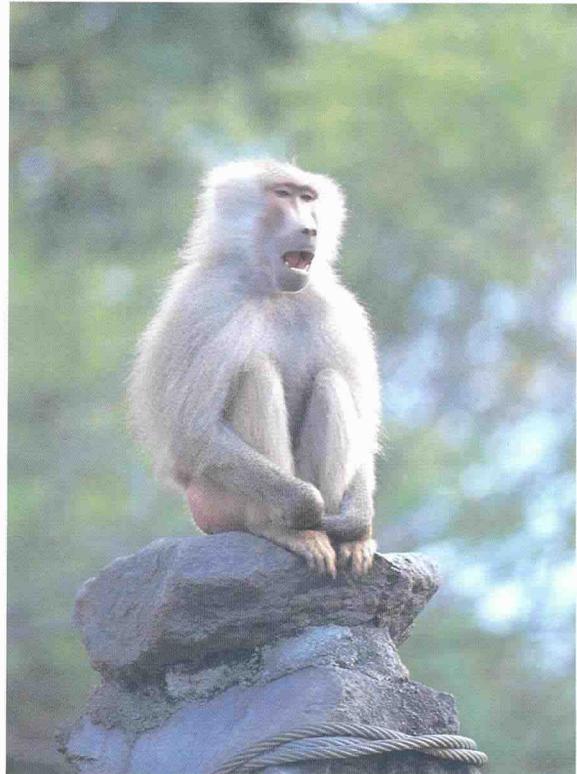
四季折々の花や昆虫を求め、日曜日になると

写真機材を愛車に乗せて、朝の暗いうちから出かけます。

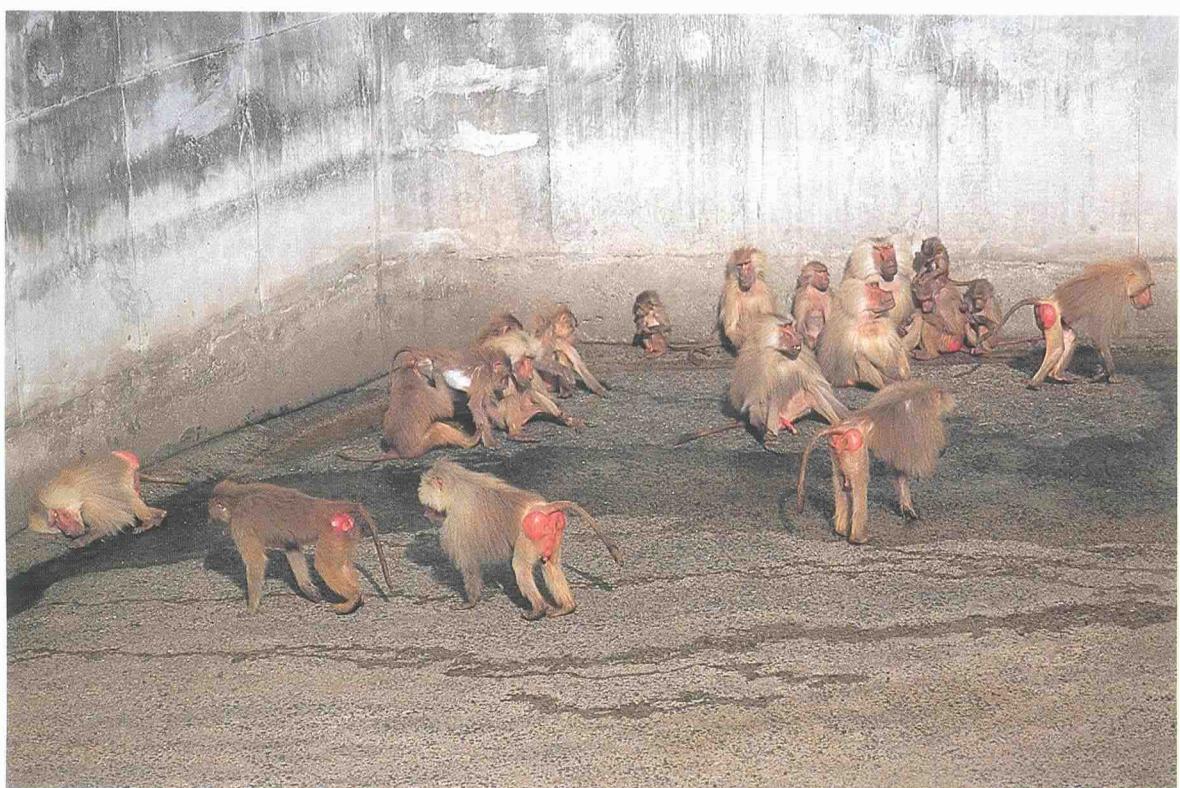
自然の中で営まれる生命の神秘と、その発見の喜びを

フィルムに記録し作品まで仕上げたとき

再び、その感動がよみがえります。



今年はサル年  
おれたちが主役



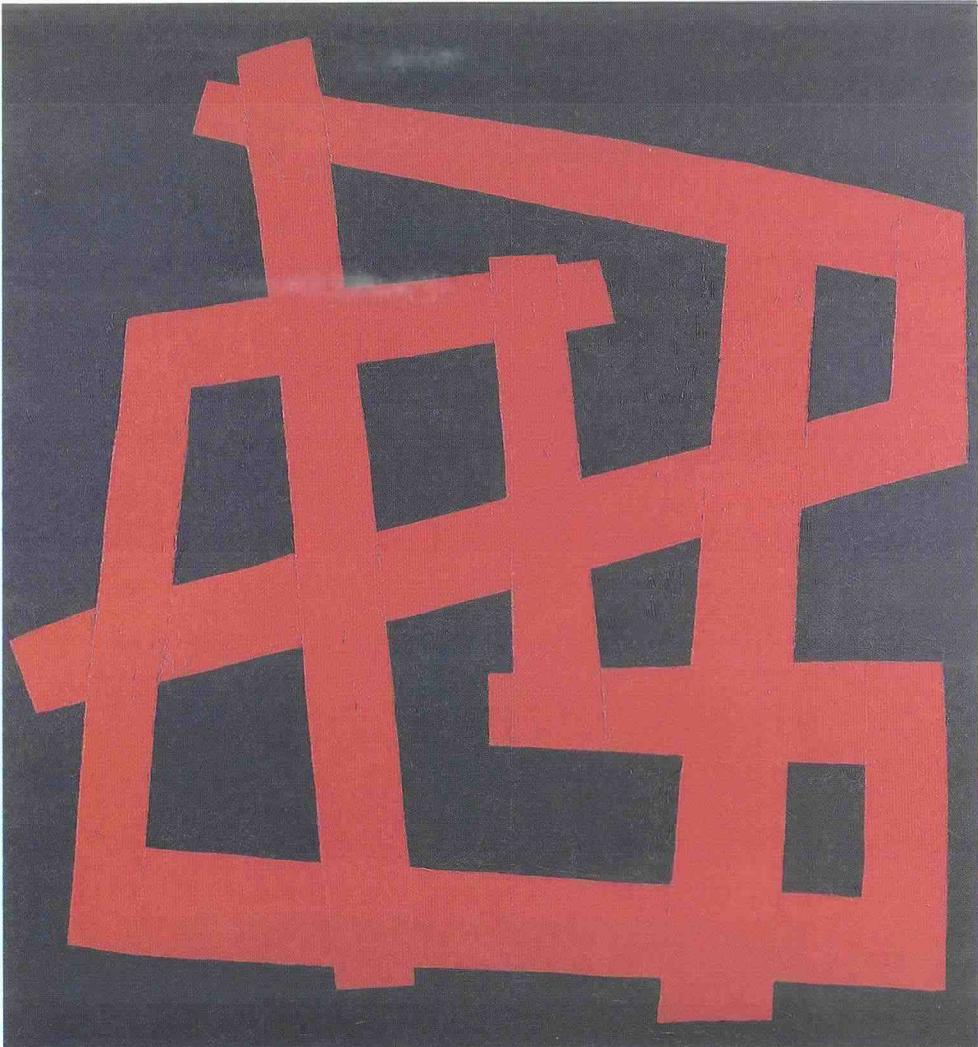
おれたちはマントヒビ。クニの  
エチオピア高原やアラビア半島で  
は、群れをつくって暮らしている  
んだ。

今年はサル年だつて。どおりで

おれたちを見る目が熱いんだな。  
平川動物公園には、おれたちサル  
の仲間が二十八種類もいるんだ。  
これからも仲良くしてくれよな。



市立美術館



「構成(赤)」(1955年)

サイズ(182.7cm×184.0cm)  
油彩・板

山口 長男(1902~1983年)

〈作者〉明治35年、韓国のソウル市に生まれ、昭和2年、東京美術学校を卒業と同時に渡仏して、佐伯祐三らと親交を結ぶ。滞仏4年、帰国して二科展に出品。同会の前衛作家たちとともに九室会を結成。戦後はサンパウロ、ベネチアなどのビエンナーレ展に出品。第1回 現代日本美術展で最優秀賞を受賞。昭和37年、芸術選奨文部大臣賞を受賞。

日本の抽象画家の中で最も強力な作品的発言力をもった一人で、吉原治良や齊藤義重らとともに、戦後のアバンギャルド(前衛芸術)の中心的な存在だった。特に、武蔵野美術大学では後進の育成に力を注ぎ若い画学生たちに大きな影響を与えた。

山口自らが『自分の性格色』といった赤茶色か黄土色と黒との心象的フォルムは、默示に満ちた独自の抽象世界として前人未踏の作風を築きあげた。

△解説△黒地に赤茶色の長い矩形が構成的に組み合わされた大画面です。

山口長男は、この頃、盛んに黄土色または赤茶色の縦と横の格子による構成を試みています。構成(赤)は、この期の線描的空間表現の代表作ともいえるもので、ベニヤ板二枚の正方形の画面に幾何学的な太い線が格子状に、かつてりと塗りこめられています。

しかし、よく見ると、矩形の辺は定規で引いた直線ではなく、微妙な歪みが認められ、その歪みが極めて自然に空間のバランスと造形的な緊張を保っているようです。作家の深い洞察と感性は、自然や宇宙の中にあるリズムや秩序をイメージ化し、悠揚とした画世界を創りあげています。

ナイフによる丹念な絵の具の塗り重ねは、熟練した職人の手仕事を思われます。

市立美術館学芸員  
赤崎 幸

# 今、宇宙劇場がおもしろい。

# リング オブ ファイア **RING OF FIRE**

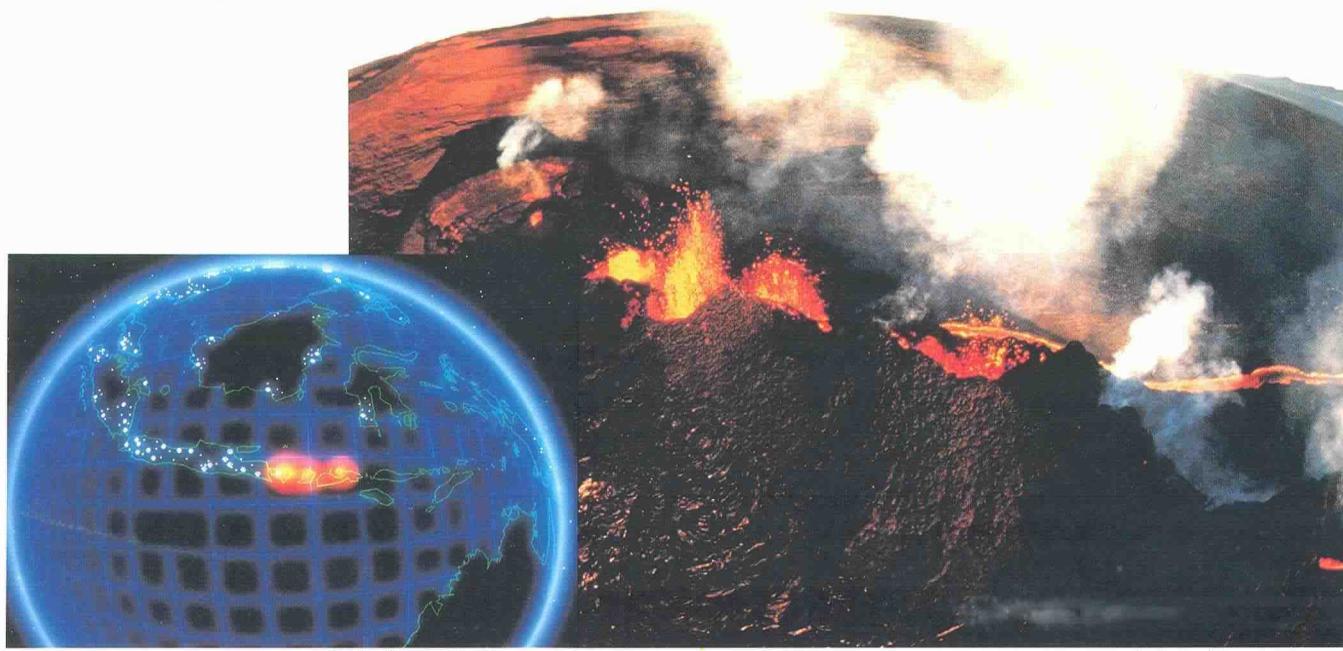
日本初公開!

## ■オムニマックス映画■ **RING OF FIRE**

【太平洋を取りまく環太平洋火山帯】

100年以上の眠りからさめたアメリカのセント・ヘレンズ火山、チリ南部に突然現れたナビダッド火山、噴煙を噴き上げ続ける桜島…。火山と、そこに生きる人間のもつ生命力が直径23mもあるドームスクリーンいっぱいに映し出され、迫りくる火山の爆発シーンは見ものです。

■上映期間／平成4年6月14日(日)まで



環太平洋の火山帯(インドネシア)

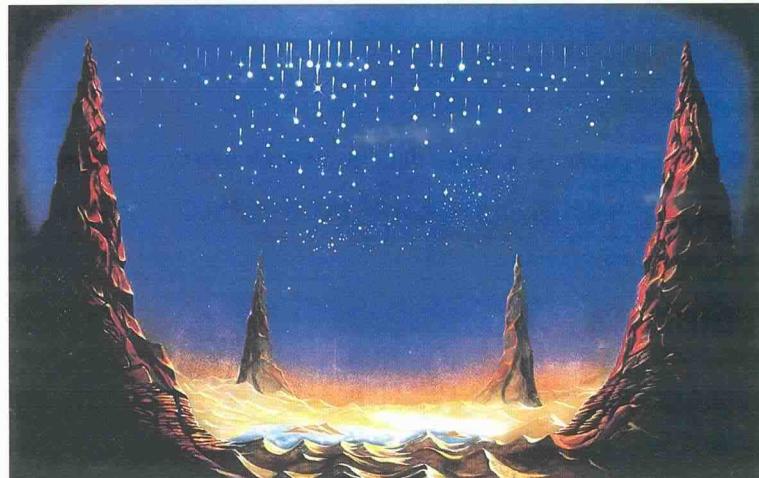
マウナロア火山の噴火(ハワイ)

## ■プラネタリウム■

### 冬の星空 昔の人の考えた宇宙

昔は地球を平らなものとか、大きなカメにのったゾウが世界をささえていると考えた人々もいました。望遠鏡などのない昔、人々は、ほかにどんな宇宙を考えていたのでしょうか……。  
あなたをロマンの世界へ案内します。

■上映期間／平成4年2月16日(日)まで



**ビッグアイ**

鹿児島市立科学館 50-8511